

議会報告会 意見交換会でのご意見・ご質問

総務委員会 分科会テーマ【どうしていこう防災対策と避難所】

- ・ 避難指示について 避難所のほうが低い土地であったり、避難所のほうが危険な場所であることがあるが、それを分かって指示を出しているのか？
- ・ 佐賀市南部地域からの避難について 佐賀市北部地域（山側）への避難道路が欲しい。有明海からの津波等の被害を避ける場所がない。
- ・ 水害対策の話ばかりが取り上げられているが、地震も大規模な被害が出るので、そちらの対策も進めてほしい。
- ・ 避難対策、防災対策への支援もしてほしい。【耐震診断費用の補助を紹介】周知広報が足りない。

福祉教育委員会 分科会テーマ【情報コミュニケーション条例を考えてみよう

～あらゆる人とストレスのないコミュニケーションをとるために～

- ・ 情報コミュニケーション条例について 生まれた時から聾啞者で、手話に誇りを持っている。手話は聾啞者の命であり、聞こえない者は誇りを持っている。手話言語条例、というのを盛り込んでほしい。名称については残念です。
- ・ 視覚障がい者が一番困るのが横断歩道、信号。音の出る信号でも昼間はなるけど、夜はならない。時間や状況によって違う。緊急放送、字幕など音声放送がついてこれない部分がある。状況を把握できる手段が少ない。スマホなど持っていない人もいる。手段がまだ確立されていない。信号についてはスマホにアプリを入れて、渡る方法を教えてくれるものがあるらしい。福岡吉塚、九大前のアプリを使った信号があり、体験してきた。音声信号の騒音が問題になるなら、アプリ信号も代わりとしてあるのでは。佐賀市でもきめ細やかな対応をお願いしたい。
- ・ 様々な議員が体験をして、条例を作ろうとしていることに感謝。コミュニケーションボードが設置されたが、そもそも使い方が分からなかった。最近では見なくなった。親として大切と思うのは、小さな時からコミュニケーションに慣れること。コミュニケーションボードも、地域や学校、市役所の窓口でも率先して使い続けると、慣れていくのかと思う。小さなうちから慣れる必要があると思う。
- ・ 聴覚障がい者は待ち続けています。コミュニケーションがとれない。手話言語と日本語が、同じ言語であるけれども違う。コミュニケーション条例が制定されたら、聞こえる人とも簡単な挨拶とか、コミュニケーション条例に盛り込んでほしい。全国で300の市町村が条例制定を決めている。
- ・ 災害が増えている。自助、公助、共助と言われるが、加えて”近所”でも助け合うことをしないと伝わらない。東日本大震災でも、聴覚障がい者の死亡は健常者の2倍。
- ・ 手話言語の言語の獲得は教育の現場で、小さな時から。大きくなると理解しにくい。2歳くらいに、言語取得、2万語くらいシャワーのように浴びせる。5歳くらい、10歳くらいで国語力の壁ができてしまう。手話の普及をしっかりとってほしい。学校現場で自由の時間が少なく、英語の時間はあるのに、手話に使う時間がない。以前は総合学習の時間に手話を伝えに行っていた。小さい時にしておく、と、大学、短大ですぐに思い出せる。唐津、武雄、嬉野の3市だけでしているが、県と市も先駆的に取り組んでほしい。

- ・ 手話が理解できない。コミュニケーションが難しい。UDトークサークルを3年前に立ち上げた。年になってから手話を覚えるのが難しい。文字に頼っている。それぞれのコミュニケーションを助ける情報コミュニケーション条例であってほしいと願っている。
- ・ 見えない、ではなく見えにくい人間です。〇〇しにくい方も補完してもらうような条例を意識してほしい。同じ職場に難聴の男性がいる。補聴器をつけていれば、静かな場所でゆっくりはっきり話すことができ、ちょっとした気配りでもコミュニケーションを取ることができる。当事者の話を聞いてもらいながら、我々の当たり前がみんなの当たり前になるきっかけにこの条例がなるといいなと思う。
- ・ 一般の方と差別がない内容にしてほしい。手話が言語という意識が大切。佐賀がトップレベルになってほしい。
- ・ 点字ブロックに自転車等モノを置いてしまう。点字ブロックが色分けされていない。弱視者は明確に色分けされている必要がある。市からくる文書、手紙に点字を入れてほしいと要望しています。ワクチン接種券に点字が入っていたことで、間違っ捨てることがなくて良かったです。

経済産業委員会 分科会テーマ【佐賀市の経済対策と観光戦略！】

- ・ コロナ禍に支給された支援金のおかげで多くの中小企業が助かった。また、プレミアム付き地域振興券で消費も喚起され売り上げにも好影響があった。引き続き支援事業を行って欲しい。工業については工場を拡張したくても調整区域のため、拡張が出来ず、生産性の向上を阻害しているケースがある。拡張が出来ずに佐賀市から転出する企業も存在している。調整区域の弾力的な運用をして欲しい。
- ・ 経済産業委員会の分科会において農業が議題に上がっていなかったのが良くなかった。営農者、特に米・麦・大豆の生産者をどうやって守っていくか？市が集落農業に対し、様々なアンケートを行ってきたが、良くなった実感がない。何のためのアンケートなのか。アンケート結果を踏まえて市が施策を実行していないと思う。営農者を増やすための市の施策は、全部が上手くいったとして増えても2~3人しか増えない。佐賀市の農業は誰が担うのか？営農者の高齢化の深刻さを認識して欲しい。米の消費が減っているが、米食をもっと啓蒙して欲しい。
- ・ コロナ対策の支援金を受けて倒産は減っているが、依然として先行きが不透明な事業者が多いのが現実としてある。大和は50戸連たんによって住民が増えたが、大和IC工業団地に工場が未だ来ない。若者の働き口確保のためにしっかりと動いてほしい。佐賀市は他市に遅れを取っている。大和IC工業団地は立候補した会社の中から優良企業を取捨選択すると聞いたが、現状はどうなのか？調整区域についても弾力的な活用をお願いしたい。
- ・ 佐賀市の観光戦略について。同じ九州でも宮崎市は街並みが綺麗でとても良かった。各家庭でプランターに花を植え、住民が頑張っているように見えた。佐賀市においても市民に啓蒙をして欲しい。
佐賀市の観光戦略はイベントばかりで一過性のものばかり。通年で観光客が訪れるような観光戦略を練って欲しい。福岡県柳川市は人口が少ないのに観光客がとても多い。佐賀市もいかに人を呼び込むかを考えて欲しい。

建設環境委員会 分科会テーマ【さがしの川を守るために】

- ・ 土地改良区が管理している以外の水路（クリーク）は流れが悪いので、年1回は浚渫を行わないといけない。
- ・ 地区住民は高齢化しており、河川清掃は地域ではできなくなっている。
- ・ マンパワーで行える時代ではない、行政にもっとハード（水草伐採、浚渫など）を行ってほしい。
- ・ ソフト面ではなく、行政側の取り組みを求める。
- ・ まずは行政が担い、残りのできることを地域が行うようにしてはどうか。
- ・ まずは行政が出来ることを示すべき、そして残りを地域が担うようにしてほしい。
- ・ 水草伐採や浚渫予算をもっと確保すべきだ。（管理予算の拡大を）
- ・ なぜ河川を守るのかということ、地域に出向いて子どもたちにも説明をしてほしい。どこに依頼すればいいのか。
- ・ 河川の浚渫については、年度当初であるとか時期を決めて、自治会に意向調査を行うべし。
- ・ 単位自治会内に農家はいないが、農業用水路はある。農家がないため、農業用水路浚渫のための補助金申請ができない。
- ・ 校区自治会内の単位自治会間で浸水被害にあう地域とあわない地域との間で、河川浚渫に対する意識の温度差がある。